

第25回シンポジウム「高齢社会を共に生きる」の 実践報告要旨

「限界集落“じいちゃん、ばあちゃん、ここで居れるでヨ”応援事業」 北山 佳生（NPO法人 どーんと・せーの！！理事長）

徳島県海部郡海陽町における限界集落(高齢者比率61%)の生活支援を通じて、そこで暮せる安心感の醸成と、たとえ高齢者ばかりになっても地域を維持できる仕組みづくりを地域後継者とも連携して町づくり活動の一環として取組んだ。具体的には、住民への個別訪問によるニーズキャッチ、移動手段を提供する乗合便、地域を巡回しての独居者等の生活支え合い事業等のサービス開発、介護保険制度外の訪問型介護サービスの提供、人口流入を目的とした空き家の斡旋や町づくり活動等ソーシャルワーク機能を意識して実践した。

「^{支え合う、ひろがる}尊厳に満ちる町でかけがえのないあなたの最期を—トータル支援パスでおもいをつなぐ—」 吉井 敦子（社会福祉法人野の花会理事長）

鹿児島県南さつま市加世田地区において認知症になっても安心して住める町づくりのため「トータル支援パス」による医療・福祉・保健とのネットワークづくりを目指した。最初に関係機関との支援パス開発のためのワーキングチーム等の運営組織を立ち上げた。また講演会等により地域住民、医師等へ認知症介護の啓発を継続して行った。これらの取組を通じて地域住民、関係機関の意見を取り入れながら、パスの試行を重ねて、利用者、サービス提供者双方にとって必要な情報を登載した「トータル支援パス」の活用がスタートした。